

		自 己 評 価			
		評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考
①	組織的な学校運営	(組織的な学校運営) 各主任が中核となり現状課題に対する改善提案をして、教職員各々が校務に責任をもち、一丸となって学校教育目標の具現化を図る。	【努力指標】 実施把握と現状課題に対する取り組み提案がされ、組織的に対応している。	提案を配慮し組織的に対応した割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：総務部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：7月 12月
		(教職員研修) 教職員は、積極的に研修に努め、その成果を他の教職員と共有し、本校にとって有効なものを共通理解し実践に結びつけていく。	【成果指標】 紙面を伴う研修報告を行い、成果を共有して、本校にとって有効なものを実践に結びつけている。	提案を受けて実践に結びつけられた学級数が A：12学級 B：10～11学級 C：8～9学級 D：7学級以下	主担当：教育推進部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：10月 1月初め
		(危機管理) 内在する学校危機を想定した研修や訓練と、日常的に危機を意識化することにより、危機の未然防止と危機に対しては迅速で適切な対応を行なう。	【成果指標】 危機を想定した研修・訓練内容を共通理解し、日常的なイメージトレーニングを通して学校危機を回避している。	研修や訓練回数が各学期に、 A：3回以上 B：2回 C：1回 D：0回	主担当：総務部 評価方法：回数の集計調査 実施時期：各学期末
②	確かな学力の育成	(授業改善) ねらいを明確にして、形成的な評価を大切にしながら、指導と評価の一体化を図った授業を行なう。	【努力指標】 各自が教科を決め、指導と評価の一体化を図った授業実践を行なっている。	指導と評価をPDCAを通して行えたとする教師の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教務部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：7月 12月
		(活用する力の育成) 新学習指導要領を熟知し、指導方法を工夫し、児童に思考力・判断力・表現力等の活用する力を育てる授業実践をする	【成果指標】 算数科を中心に学校研究ともからめ、活用する力を育成する授業実践を行なっている。	評価テスト(活用)の到達度平均が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：教育推進部 評価方法：評価テストの結果 実施時期：12月
		(基礎基本の習熟) ドリルタイムを中心に、繰り返し習熟学習を進め、基礎基本の知識・技能の定着を図る。	【成果指標】 漢字・計算等の習熟指導を行い、基礎基本の知識・技能の定着を図っている。	漢字・計算の評価テストの達成度平均が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教務部 評価方法：漢字-普段の小テスト 計算-学期末の評価テスト 実施時期：7月 12月
③	豊かな心の育成	(楽しい学級) 授業を中心に、認め合い、励まし合う人間関係力を向上させ、活き活きと楽しい学級づくりをする。	【成果指標】 授業を中心に、認め合い、励まし合う人間関係が高まり、児童が楽しく学級生活を送っている。	楽しい学級だと感じている児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教育推進部 評価方法：児童アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月
		(読書活動の充実) 伝統ある読書活動を基盤に、学校の実態に合わせた取り組みを充実させ、進んで本に親しむ環境を整備し、豊かな情操を養う。	【成果指標】 朝読書の充実と「おすすめ10冊」をすべて読み終えるよう取り組んでいる。	おすすめ10冊を読み終えた(高：8冊以上)児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教育推進部 評価方法：読書冊数の集計調査 実施時期：10月 1月初め
		(主体性の育成) 児童が学年を越えた様々な取り組みの下で、主体的に生活目標達成に向けて取り組んだり、規範意識を高め合ったりできるように指導を工夫する。	【成果指標】 児童会を中心として、生活目標の達成や規範意識の向上に向けて、自主的な取り組みを進めている。	自主的活動を1回以上行った委員会が A：全11委員会 B：9～10委員会 C：7～8委員会 D：6委員会以下	主担当：生徒指導部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：10月 2月
④	健やかな体の育成	(体力づくり) 体育授業の充実とスポチャレや一校一プラン、異学年交流等年間を通した体力づくりの取り組みを進め、運動の日常化と体力の向上を図る。	【成果指標】 体育の授業を中心として、年間を通した体力づくりの取り組みで、体力が向上している。	新体力テストで得点が低かった項目の測定伸び率 A：25%以上 B：20%以上 C：15%以上 D：15%未満	主担当：健康安全部 評価方法：測定値調査 実施時期：6月 11月
		(基本的な生活習慣の確立) 家庭と連携して、規則正しい生活習慣の確立を図り、望ましい生活リズムを身に付けた児童を育てる。	【成果指標】 学校と家庭が連携した取り組みの中で、児童が規則正しい生活習慣を身に付けている。	規則正しい生活習慣を身に付けている児童の割合 A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	主担当：健康安全部 評価方法：健康生活カードの集計調査 実施時期：7月 10月
		(安全能力の育成) 学校内外を問わず、危険を察知し、自分の身は自分で守る能力を育てる。	【成果指標】 児童は、日常的に安全に留意し、事故や怪我の防止に心掛けている。	けが発生率の減少、前年比 A：20%以上 B：15%以上 C：10%以上 D：10%未満	主担当：健康安全部 評価方法：治療記録の集計調査 実施時期：7月 12月 2月
⑤	家庭・地域との連携	(社会性の育成) 学校・家庭・地域が連携して、日常的に自然で明るいあいさつができる児童を育成する。	【成果指標】 学校ではもちろん、家庭や地域でも、児童が身近な人に進んであいさつをしている。	児童があいさつをするようになったと感じている教師・保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：生徒指導部 評価方法：保護者アンケート調査 教師アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月
		(教育活動の公開と改善) 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域の意見を受け止め、家庭・地域と連携した信頼される学校づくりに努める。	【満足度指標】 保護者・地域の意見を学校改善に生かしている。	アンケート結果で改善を要する項目のうち、向上した項目の割合が A：全ての項目で B：8割の項目で C：6割の項目で D：5割以下の項目で	主担当：総務部 評価方法：保護者アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月
		(経営方針や教育活動の啓発) 学校からの発信を充実させ、保護者に学校の経営方針や教育活動を伝え、理解と協力を得る。	【満足度指標】 保護者に学校の経営方針や教育活動が理解されている。	学校の方針や様子が伝わっていると感じる保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：総務部 評価方法：保護者アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月

